

あきしま学びぶん(第2次昭島市生涯学習推進計画)進捗状況調査

- ◇調査実施 平成27年7月
- ◇調査対象 生涯学習、社会教育に関連する事業を実施している23部署
(昭島市社会福祉協議会含む)
- ◇調査内容 「事業名」
「事業目的」 その事業本来の目的
「事業内容」
「今後の課題」
「評価」 ◎、○、△、×の4段階自己評価

※空欄は回答なし

(1)「学び」の基礎をつくる(あきしま学びぷらん(第2次昭島市生涯学習推進計画)P.23～24)

(1)–①

■小学校区を中心とした活動 具体的な取組み:連携の推進、人材の確保、情報の収集と提供

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
社会教育課	PTA(主に公立小及び公立中の各協議会)育成補助	市の社会教育の発展を図るため、社会教育関係団体としてのPTA活動を支援する。	補助金の交付。H27年度より前会長校と「PTA運営ガイド」を編集し、相談窓口として社会教育課を明記した。講座等の情報提供も行っている。	どちらかと言えば、活動が縮小傾向にある。活動の継続に向け、単年度で変わっていく役員の負担感軽減。	○
子ども育成課	放課後子ども教室推進事業	放課後等に子どもたちの安全・安心な居場所を確保し、スポーツ・文化活動や学習活動、地域住民との交流活動等の様々な活動機会を提供する。	放課後等に小学校の学校施設を使用して、子どもたちに安全な居場所を提供し、自主的な遊び、学習活動を支援する。地域の多様な大人の参画を得て、子どもたちにスポーツ・文化活動や学習活動、地域住民との交流活動等の様々な活動機会を提供し、子どもたちが安心して健やかに育まれる環境づくりを推進する。	「昭島市子ども子育て支援事業計画」では、学童クラブの確保の方策として、国の「放課後子ども総合プラン」に基づき、学童クラブと放課後子ども教室の一体型又は連携による体制整備に努めるとあるが、空き教室の確保など関係各課等の綿密な調整を必要とする課題がある。また小学校の統合により放課後子ども教室の調整も急務である。	◎

(1)「学び」の基礎をつくる(あきしま学びぷらん(第2次昭島市生涯学習推進計画)P.25～32)

(1)–②

■地域の中での活動 具体的な取組み:紹介、支援、育成

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
社会教育課	生涯学習校区協議会育成補助	小学校区を中心に、特色ある生涯学習の機会の提供を行う	補助金の交付(平成27年度2団体各190,000円) 【つ北小地区・いきいき楽習協議会】平成15年度より活動、男の料理教室、大人の遠足、風もきらめく二十歳の会などを実施 【田中小校区生涯学習住民協議会】平成20年度より活動、自治会と連携した防災訓練、星空観察会、田中寄席などを実施	小学校の統廃合による活動継続の調整(つつじが丘北)	○
	子ども会育成補助	子ども会活動の支援	補助金の交付(H27年度連絡会1団体、単独子ども会38団体368,500円)、世話人対象の研修会の実施(H27年度野村證券「まなぼう教室」参加28名)	子ども会数の減少傾向が続いている。現在全児童数から見た加入率は25%を切っており、単年度で変わる役員の負担感軽減	○
子ども育成課	青少年育成事業	青少年をめぐる社会環境の浄化を図るとともに、地域の関係団体と協働して青少年の健全な育成を図る。	青少年の育成に関することすべてを包括的に行う。 ・青少年とともにあゆむ小学校地区委員会・中学校地区委員会への補助及び連絡調整。 ・青少年補導連絡会への補助及び連絡調整。 ・あいさつ運動の推進。 ・広報誌「あきしまの青少年」を通じ、健全育成活動への市民意識の啓発及び情報提供。 ・青少年健全育成協力店指定制度を通じ、地域事業者への健全育成活動の啓発。	小学校の統合により小学校地区委員会の調整も急務である。	◎

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
子ども育成課	青少年リーダー育成事業	青少年が、各年代において地域活動の中でリーダーとしての技術の向上を目指し、地域で活躍出来るようにすることを目的として実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生リーダー講習会は、各小学校区において小学生のリーダーを養成することを目的に、宿泊講習1回を含む全5回以上で実施。 ・中学生リーダー講習会は、団体活動や野外活動の基本的な知識や技術の習得を中心に、宿泊研修1回を含む全8回で実施。 ・リーダースクラブの育成については、リーダー講習会を受講した中学生から24歳までの青少年が継続的に活動できるよう、諸活動に対し支援、援助を行う。 	小学生リーダー講習会、中学生リーダー講習会ともに昭島市の青少年育成事業として長期にわたり継続的に行われている事業で、多くの参加者がいるが、最近では学習塾や部活動のため参加の意思があるのに出来ない子どもも多いので、参加できる機会を検討したい。	○
	青少年スポーツ大会事業	子ども達が地域の方々とスポーツを親しむことにより、協力し合うことの大切さを学ぶとともに、体力増強にも資する。	小学校区毎にそれぞれの地域の特色を活かした内容で実施している。個人的な競技はなるべく避け、地域の方々とのふれあいを重視し、多くの子ども達が参加、協力できるような種目を中心に実施している。	小学校の統合により小学校地区委員会の調整が急務である。	◎
介護福祉課	老人クラブ補助事業	地域の高齢者が老後の生活を健全で明るいものにするため、自主的にクラブを組織し、クラブ活動を通じて高齢者福祉の増進を図るため、補助金を交付し、活動の助成と育成を図る。	<p>おおむね60歳以上の者を構成員とし、常時参加者がおおむね30人以上の老人クラブ及び老人クラブで組織された老人クラブ連合会に対して補助金の交付</p> <p>平成26年度 昭島市老人クラブ連合会 1団体 老人クラブ 55団体に補助金の交付</p>	老人クラブの無い地域における新規クラブ設立のための支援及び既存老人クラブの後継者の育成が必要	◎
生活コミュニティ課	自治会加入パンフレット作成	自治会未加入の方へ自治会への加入を勧める。	自治会活動及び自治会区域を紹介するパンフレットを、転入手続時や市窓口で配布する。	平成26年度に、パンフレットをモノクロからカラーに変更し、更に、切手不要の加入申込はがきをつけた。効果を検証する。	◎

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
生活コミュニティ課	自治会及び自治会連合会補助金	地域住民の親睦及び福祉の増進を図る。	市内に組織する自治会及び自治会連合会が行う各種事業等に要する経費に対し補助金を交付する。	補助金の適正額について精査していく。	△
	自治会が費用負担する土地又は家屋等に対する補助金	自治会活動を支援する。	自治会が自治会活動のために費用負担する土地又は家屋等に対し補助金を交付する。	補助金の適正額について精査していく。	△
	自治会集会施設整備補助金	自治会活動を支援する。	自治会が地域住民の集会、催物その他住民の福祉の増進を図るために設置する集会施設の新設、増改築、修繕若しくは便所水洗化又は防音工事等を行う経費に対し、当該自治会に補助金を交付する。	補助金の適正額について精査していく。	△
	自治会掲示板の新規設置及び修理経費の補助	自治会活動を支援する。	自治会掲示板の新規設置及び修理経費を補助する。	自治会ごとに必要な掲示板の数等精査していく。	○
	コミュニティ協議会補助金	地域住民の連帯意識を高め地域課題の解決に向けた地域住民の自主的な活動を促進する。	市内に組織するコミュニティ協議会が行う事業等の経費に対し補助金を交付する。	既存協議会のメンバーの固定化、活動のマンネリ化への対策、及び、新規協議会設立の声掛け	◎

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
生活コミュニティ課	公共施設地域管理補助金	市立会館などの1室をコミュニティ・ルームとして協議会の活動で利用できるようにし、そのコミュニティ・ルームを設けた市立会館などを、地域の会館として協議会が運営管理する。	コミュニティ協議会が市立会館その他の市の公共施設を管理する場合において、その管理に要する経費に対し補助金を交付する。 現在は、市立武蔵野会館運営協議会が、武蔵野会館を地域で管理することについて、補助金を交付している。	市内で唯一協議会が運営管理に携わっている武蔵野会館だが、市立会館の一つであるため、協議会が運営管理をしても、自由度が少ない。 また、協議会による会館管理が、他の施設に広がっていかない。	○
	公共施設アダプト事業	ボランティア活動をはじめとする市民が主体的に行う地域貢献活動の健全な発展を促進し、もって協働型社会の形成を図り公益の増進に寄与することを目的とする。	市が管理する道路、公園、緑地等の公共施設の美化清掃活動を自主的に行う団体に対し、清掃用具の提供やボランティア保険の加入など必要な支援を行う。	既存団体のメンバーの高齢化による、活動解除。 新規団体登録の声掛け。	◎
社会福祉協議会	ボランティア登録	ボランティア団体の育成	ボランティアセンターで、ボランティア事業登録団体の受付を実施、センター活動室や設備の利用等の支援を実施 (87団体：平成26年度末現在)		◎
	ボランティア助成金	ボランティア団体の育成	ボランティアグループに助成金を交付し、活動を支援		○
	サロン活動助成金	サロン活動団体の育成	地域のつながりが生まれる場としサロンの立ち上げを推進し、サロン団体に、助成金を交付し活動を支援 (平成26年度 39団体 555,000円)		◎

(1)「学び」の基礎をつくる(あきしま学びぷらん(第2次昭島市生涯学習推進計画)P.33～35)

(1)–③

■個人の学びの充実 具体的な取組み: 紹介、支援、育成

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
社会教育課	社会教育関係団体	団体活動の活性化と活動の紹介	登録団体ガイドブックの作成(会館等及びホームページで閲覧可能) 社会教育関係団体指導者研修会の開催(H27年度「人が集まる! テラシの作り方」参加者29人)	登録団体ガイドブックの内容の充実、紹介にあたっては社会教育課が仲介となっており、時間を要することもあるので個人情報の取り扱いに関する検討	○
	市立会館等利用団体	市民の自主的なグループ、サークル団体の活動や交流の場、市民生活に必要な資料や情報交換の場を提供する	市内11会館の管理運営	市立会館利用団体に関する情報の提供方法の検討	○
市民会館・公民館	公民館主催事業・公民館施設提供事業	様々な学習ニーズに対し、興味や関心を高める講座を企画するほか、市民団体に公民館施設の提供を行い、個人の学びを充実させる。	各種課題講座、教育講座、自主企画事業、昭島市民大学、等	市民ニーズが多岐にわたり、学びの興味や関心の対象が限定されることがある。	◎
健康課	各種講座・教室の開催	ライフステージにおける健康課題に応じた健康に関する講座や健康教室を通し、自らが進んで健康づくりを実践できることを目的とする。	生活習慣病予防対策として、いきいき元気教室、ヘルスアップ運動教室、糖尿病教室等 母子保健健康教室として、マタニティークラス・フレッシュパパママ学級、初めての歯磨き教室離乳食講座や2歳児すこやか教室等	特定健康診査などの受診結果に基づき、市の疾病構造などの健康課題に応じた講座や健康教室の実施を今後も継続して行う。未就学児の保育付きの教室を充実させ、参加しやすい講座・教室づくりを継続する。	◎
スポーツ振興課	各種教室の開催	「(3)学びの機会を提供する② ■多様な学習内容の提供」(P.25～27)を参照			○

(1)「学び」の基礎をつくる(あきしま学びぷらん(第2次昭島市生涯学習推進計画)P36～38)

(1)-④

■「学び」を見つける 具体的な取組み:紹介、支援、育成

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
社会教育課	「あきしま学びガイド」(生涯学習情報誌)の発行	生涯学習情報を市民へ提供し、生涯学習の推進を図る。	毎年4月に当年度に予定されている生涯学習に関連のある市の事業を一覧にして発行。ホームページでも閲覧可能	市の事業だけでなく、民間の情報の掲載を検討するなど、内容の充実を図りたい。	◎
	「登録団体ガイドブック」の発行	社会教育関係団体の活性化と、生涯学習推進のため	毎年6月にその年に登録された社会教育関係団体の一覧をガイドブックにし、市民に公開。市内各施設、ホームページで閲覧可能	登録団体ガイドブックに個人情報が含まれていないため、個人情報の取り扱いについて今後検討	○
市民会館・公民館	公民館登録団体紹介事業・学習相談事業	公民館登録団体を種別に分類し紹介しているほか、学習相談により講座案内をするなど、市民のニーズにあった学習や活動の紹介をする。	公民館登録団体紹介カードを自由に閲覧できるほか、学習相談事業も行っている。	情報には連絡先等の個人情報は含まれていないため、市民との取り次ぎを円滑にすることが課題	○
秘書広報課	「広報あきしま」の発行	市民と行政が情報を共有し、理解しあい、協働してまちづくりを進めるため、市の政策や事業について周知する	「広報あきしま」を発行する。また、視力の弱い方を対象に、広報紙を音訳した「声の広報」や、点字広報を発行する。	より見やすい紙面づくりの研究	◎

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
情報推進課	昭島市公式ホームページ	1. 市の政策・施策の情報を提供する。 2. 昭島市での暮らしに役立つ情報を提供する。 3. 市役所の窓口としての機能を充実させ、住民サービスの向上を図る。	市民へのタイムリーで有効な行政情報や緊急時の情報発信	ウェブアクセシビリティ(ホームページの見易さ、わかりやすさ)の継続的な確保・維持・向上	◎
社会福祉協議会	情報誌「ありがとう」	ボランティアに関わる情報や様々な活動の紹介	ボランティア情報誌「ありがとう」に、市民の投稿など記事を掲載し隔月発行する。(1回1,000部)市立会館や学校、商店などに配布(6回/年)		◎
	社会福祉協議会広報「ふれあい」	社会福祉協議会の実施する、講座・ボランティア等の情報提供	社会福祉協議会広報「ふれあい」を奇数月に発行、講座・ボランティア等の情報を公開(6回/年:全戸配布)		◎
	社会福祉協議会ホームページ	社会福祉協議会の実施する、講座・ボランティア等の情報提供	社会福祉協議会ホームページに最新の講座・ボランティア等の情報を公開(随時更新)		○
	ボランティア相談	ボランティアをしたい方、して欲しい方の仲介	ボランティアセンターで、ボランティア相談を実施(随時)		○

(2)「学び」の場を確保する(あきしま学びぷらん(第2次昭島市生涯学習推進計画)P.40～44)

■市の施設の整備・充実 および 使いやすい施設に向けて 具体的な取組み:整備・充実、工夫、提供、支援、協働、育 (2)-①

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
市民会館・公民館	市民会館・公民館施設管理事業	施設的环境整備・充実を図り、使いやすい施設を提供する。	利用しやすい施設に向けた改善や視聴覚機材等の貸し出し等	老朽化した施設の改修や備品の買い替え	○
社会教育課	市立会館管理運営事業	市民の生活に根ざした文化、レクリエーション、軽スポーツの場として、市民の自主的なグループ、サークル、団体の活動や交流のため。	市民の自主的、自発的な学習、文化、レクリエーションの機会と活動の場を提供する施設として、11館を設置し、市民が気軽に利用できる施設の運営を行っている。	会館の老朽化している設備の修繕と共に、施設の計画的な改修が必要である。	○
	野外活動施設管理事業	市内の青少年団体等が、野外活動を通じて自然に接し、また集団生活をとおり仲間づくりや交流を深めるため。	青少年等が野外活動を推進し、自然環境の中でさまざまな生活経験や環境学習を体験できる施設として、富士見高原キャンプ場(富士見町)北秋川山の家(桧原村)を開設している。	山の家は、借上なので維持管理、修理補填等の必要はないが、富士見高原に関しては市有施設のため、施設の修繕や間伐等樹木の手入れが必要であるため維持管理費が嵩む。	○
	郷土資料室	市内から出土した埋蔵文化財及び、市民から寄贈された民具等を常設展示し、広く一般に公開し、活用を図ると共に文化財保護思想の高揚・普及に努める。	市内から出土した土器、石器類や古文書、寄贈された民具等を体系的に展示。平成26年度の開室日数167日、入場者数1,091人	企画展などの実施ができる体制づくり	○

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
市民図書館	市民図書館の運営	生涯にわたる自主的な学習活動の場として市民に親しまれ、市民に役立つことをめざす。	知の拠点として本等の貸出、レファレンス及び講演会等を通じて市民が求めている情報を提供する。	新しい図書館機能の整備に向けて蔵書の充実、図書館職員の研修の強化及びITCの活用等を通じ、多くの市民の課題解決に長期的に耐えうる図書館づくりを検討する必要がある。	△
スポーツ振興課	総合スポーツセンター管理運営	市民の公共スポーツ施設の拠点として充実したサービスを提供	運動施設提供 [平成26年度] 団体利用・体育室(2ヶ所):67,268人・軽体操室(2ヶ所):39,279人・柔剣道場:25,037人・弓道場:14,796人・温水プール:23,558人 個人利用・軽体操室(2ヶ所):1,192人・柔剣道場:2,053人・弓道場:1,051人・温水プール:47,538人・トレーニングルーム:72,186人 [平成25年度] 団体利用・体育室(2ヶ所):62,708人・軽体操室(2ヶ所):37,467人・柔剣道場:弓道場:23,805人・温水プール:22,862人 個人利用 ・軽体操室(2ヶ所):1,339人・柔剣道場:2,183人・弓道場:1,010人・温水プール:48,158人・トレーニングルーム:68,980人	老朽化対策	○
	運動施設及び学校開放事業	スポーツ・レクリエーション活動の場として施設を開放	運動施設提供・学校運動施設開放 [平成26年度] スポーツ・レクリエーション施設開放(昭和公園陸上競技場、テニスコート 利用人数1,250人)、小学校プール開放(小学校2校 利用人数1,072人)、校庭夜間照明施設開放(小学校2校、中学校1校 利用人数8,851人) [平成25年度] スポーツ・レクリエーション施設開放(昭和公園陸上競技場、テニスコート 利用人数810人)、小学校プール開放(小学校4校 利用人数1,237人)、校庭夜間照明施設開放(小学校2校、中学校1校 利用人数7,877人)	運動施設の維持管理	◎

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
スポーツ振興課	みほり体育館	市民のふれあい、スポーツ・レクリエーションの場として提供	運動施設提供 [平成26年度] 団体利用 ・体育室: 15,424人 ・研修室: 3,667人 個人利用 ・体育室: 2,215人 [平成25年度] 団体利用 ・体育室: 13,973人 ・研修室: 2,752人 個人利用 ・体育室: 2,417人	老朽化対策	○
	運動施設管理運営	市民の健康増進や体力づくり、スポーツを普及する場として提供	運動施設提供 [平成26年度] 昭和公園: 市民球場(18,584人)、陸上競技場(31,065人)、サッカー場(41,251人)、テニスコート(34,490人)、駐車場利用台数: 71,206台 大神公園: サッカー場(13,750人)、野球場(72,329人) くじら運動公園: 少年サッカー場(19,319人)、野球場(52,566人)、テニスコート(27,834人)、ソフトボール場(29,578人) 美の宮公園: ソフトボール場(7,711人) [平成25年度] 昭和公園: 市民球場(27,999人)、陸上競技場(29,385人)、サッカー場(22,530人)、テニスコート(34,774人)、駐車場利用台数: 70,375台 大神公園: サッカー場(15,399人)、野球場(60,236人) くじら運動公園: 少年サッカー場(19,626人)、野球場(61,463人)、テニスコート(30,781人)、ソフトボール場(34,750人) 美の宮公園: ソフトボール場(7,914人)	運動施設の維持管理	○

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
介護福祉課	高齢者福祉センターの運営	趣味や健康づくりのために必要な設備・器具の設置及び交流の場を提供することで生きがいを持ちつつ健康で明るい自立した生活をより長く継続できるようにする。	集会室、会議室、和室の貸し出しや健康器具(ヘルストロン・マッサージチェア・血圧計)の提供 平成26年度利用者数 朝日町高齢者福祉センター 20,153人 松原町高齢者福祉センター 51,543人 拝島町高齢者福祉センター 15,141人	生活相談や健康相談に関する事業展開の検討	○
健康課	社会福祉協議会・障害者福祉センター・地域包括支援センター・障害支援センターを含めた複合施設だけでなく保健福祉登録団体への一般貸出	高齢者・障害者・母子保健・成人保健など健康の保持増進や機能低下予防を行うとともに、相談事業を通し、市民の生活上の問題解決に向けた支援を行う。 健康の保持増進に向けた市民の自主的な活動を推進するため、保健福祉登録団体の支援を行う。	水浴訓練・機能訓練事業・知的身体サービス・障害児児童デイサービス・乳幼児健康診査・育児相談・成人・母子健康教室・ファミリーサポート協力員養成講座の開催等	建設後15年を迎えるため、建設機能に劣化がみられる。今後は施設の安全運用のため、計画的な補修対応が必要	○
子ども育成課	児童センター管理運営事業	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにする。	・児童センターの運営 開館：午前9時30分～午後9時00分 休館日：第2日曜日、国民の休日、年末年始 年間開館日数：331日(平成26年度) ・各種事業の開催 定例事業(延269回)、単発事業(延26回)、夏事業(延21回) ・施設の維持管理 建物、空調、消防設備、雨水ろ過設備等の維持管理	・開館10年を経過し、施設設備の大規模改修を検討する時期に来ている。	◎

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
生活コミュニティ課	市民交流センター管理運営	市民相互の交流の促進を図り、もって明るい地域社会の形成に寄与することを目的	飲食のできる集会施設として管理運営	建物の老朽化に伴い、耐震診断を行い、建物の存続及び補修の検討の必要あり。	○
	松原町コミュニティセンター管理運営	市民相互の交流及び連携の促進を図る。	市民の連携やと交流を目的とした、会議やサークル活動のほか、飲食を伴う集会にも利用できる施設、及び、家族葬などの少人数のために利用できる部屋も備えた施設として管理運営	平成26年10月に開館したばかりのため、状況を検証していく。	○
産業活性課	勤労商工市民センター	勤労者・消費者・事業者・生活者等多くの市民が活用できる機会を提供する。	多様な文化、学習活動の場として体育室、サークル室、創作室、会議室などを貸出する。	昭和51年竣工の老朽化した施設であるため、施設を安全に利用できるよう、必要に応じた設備等の修繕が必要となる。	○
ごみ対策課	環境コミュニケーションセンター維持管理	「リサイクル棟」と「プラザ棟」から成る「環境コミュニケーションセンター」において各家庭から排出されるごみ処理及び、ごみの減量や資源化についての学習できる施設としている。	「リサイクル棟」では、不燃ごみ、粗大ごみ、プラスチック、びん、缶、ペットボトル等の資源選別処理を行っている。また、「プラザ棟」では、ごみの減量啓発活動として施設見学や様々な環境学習を実施している。その他では、施設内の会議室貸出も行っている。	建物、付属設備の老朽化を視野に入れた点検等を心がけ、安全な施設提供を継続していく必要がある。	◎
企画政策課	男女共同参画ルーム（おあしす）	市民が生涯にわたり男女平等の意識を育むことができるよう、情報提供を図るとともに、学習機会の場を提供する。	・情報コーナー及び多目的コーナーがあり、男女共同参画に関連する登録団体及びグループが利用 ・「おあしす」について、広報紙(6/15号)に掲載し、啓発に努めた。 ・男女共同参画関連図書(貸出)の購入で施設の充実を図っている。	「おあしす」の周知と充実を図ることに努めているが、施設の規模や老朽化が進む現状から、利用の拡大に至っていない。 31年度予定で設置される教育福祉総合センター(男女共同参画センター)を視野に入れた「おあしす」の充実を検討	○

(2)「学び」の場を確保する(あきしま学びぷらん(第2次昭島市生涯学習推進計画)P.45～47)

(2)-②

■社会教育複合施設の整備と活用

具体的な取り組み:ユニバーサルデザイン、市民交流の場、施設の柔軟性、安全対策、環境との調和、サービスの提供、内外との連携

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
教育福祉総合センター建設室	社会教育複合施設の整備と活用	学びの場を確保する	(仮称)教育福祉総合センターの整備	基本設計を早急に実施し、整備を進める。	○

(3)「学び」の機会を提供する(あきしま学びぷらん(第2次昭島市生涯学習推進計画)P.51～54)

(3)-①

■ 公民館による「学び」の場の提供 具体的な取組み: 講座の充実、情報提供の充実

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
市民会館・公民館	公民館主催事業	各種講座の提供により、市民に実際生活に即する教育、学術及び文化に関する事業により教養の向上等を図る。	各種課題講座、教育講座、自主企画事業、昭島市民大学、障害者学級等	開設までに多くの時間や労力がかかることや職員の専門性が求められることが課題	◎

(3)「学び」の機会を提供する(あきしま学びぷらん(第2次昭島市生涯学習推進計画)P.55～67)

(3)-②

■多様な学習内容の提供

具体的な取組み: 講座の充実、情報提供の充実、情報内容の充実

※公民館は、前のページを参照

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
社会教育課	中高年のためのパソコン講習会	パソコンの基本的な操作(文字入力やマウス操作など)ができる50歳以上の中高年を対象に、ワードの基礎的な機能を学習し、実際に地域の活動などで役に立つ技術を習得することで、中高年の地域生活をより充実したものにしていけることを目的に開催する。	年に1度3日間、福島会館のパソコン室で行う。定員15名。平成26年度は参加者11名、27年度は15名。参加費として900円(テキスト代別)徴収。平成24年度受講生が立ち上げた自主グループを紹介し、学習の継続にもつなげている。	生涯学習援助協力者などボランティアの活用	◎
	社会教育関係団体指導者研修会	社会教育関係団体の育成	社会教育関係団体指導者等を対象に、研修会を開催。平成27年度「人が集まる！チラシの作り方」29名参加。平成26年度「わかりやすく学ぼう個人情報」25名参加	開催日時の検討など、周知に向けた取り組み	○
	子ども会世話人研修会	子ども会活動の活性化	子ども会世話人を対象に、研修会を行う。平成27年度「まなぼう教室」(野村證券出前講座の紹介)28名。平成26年度「ファミリールール講座」30名参加	平成27年度は保育付にしたが、利用者なし。子ども会が減少傾向にある中、どのような研修会を実施していくかの見直しが必要	○
	生涯学習サポーター養成講座	生涯学習推進を図る市民を養成する。	平成27年1月から6月に、東京学芸大学倉持伸江先生を招き、養成講座を実施。受講者9名。9月から自主活動をスタートする。	養成講座の継続実施と、受講者の活動の支援	◎

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
社会教育課	土曜地域ふれあい事業「囲碁教室」「陶芸教室」	子どもたちの居場所づくりと地域住民の技能や技術を生かす生涯学習の場をつくる。	両教室とも地域の方々を講師に「囲碁」の基礎を、また「陶芸」を通してものづくりの楽しさを学ぶ。	囲碁教室のボランティア講師が不足しているため、このまま事業を継続することが難しくなっている。	○
	昭島市制施行60周年記念文化財講座『アキシマクジラの出会う夏！2014』	市民に市制施行60周年を記念して、『アキシマクジラ』の全ての化石を見学させ、文化財の重要性を啓発する。	現在群馬県立自然史博物館で、調査研究が進められている	引続き調査、研究が行われている『アキシマクジラ』について市民への啓発を行っていきたい。	◎
	まが玉作り教室	古代のアクセサリーを自ら作ることによって古代へ思いを馳せる。 また、子供たちの夏休みの宿題、及び埋蔵文化財等の啓発。	古代のアクセサリー「まが玉」のオリジナルを作る。	数年来「まが玉作り教室」を行ってきたが、ほかに子供たちが作製できる古代に関するものを提供したい。	○
	昭島市制施行60周年記念文化財講座『講談月廻野露草雙紙(不老軒宇多々作)』	市制施行60周年を記念して、市有形文化財『月廻野露草雙紙』を講談として聞いてもらい文化財の重要性を啓発する。	昭島市在住の講談師『宝井一凜』氏による市有形文化財『月廻野露草雙紙』を市民に啓発する。	引続き調査、文化財講座に取り組んでいきたい。	◎
	昭島市制施行60周年記念文化財講座『青梅線120年 昭島七つの謎』	青梅鉄道が開通して120年、近代史調査報告書Ⅱ「青梅鉄道昭島関係史料集」を発刊したのを機に市内の青梅線に因む七つの謎を講演。	青梅鉄道が開通して120周年を記念し、「青梅鉄道昭島関係史料集」を刊行したことによって市域を走る交通に歴史についての講演会。	引続き調査、文化財講座に取り組んでいきたい。	◎
	成人式開催事業	人生の節目としての新しい門出を祝福し、成人としての自覚を促し、昭島市民であることを再確認するため。	成人の日に市内ホテルにおいて、式典及び茶話会を開催している。新成人による実行委員会を設立し、企画、運営を行う。	新成人を対象とし実行委員を募集しているが、なかなか集まらないのが現状だ。引き続き広報やホームページ等の啓発を行い、その他多方面への声掛けも行って行きたい。	○

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
管理課	多摩川クリーン作戦	多摩川流域の関係市町が河川の美化清掃について市民の奉仕協力を得て実施し、良好かつ快適な憩いの場としての自然環境保持に資することを目的とする。	(原則)毎年4月の第2日曜日に自治会や各種団体に協力を頂き、多摩川の清掃を実施している。H27年5月10日 参加人数2,535名ごみ収集量1,710kg	ゴミの量は減少傾向、参加人数はほぼ横ばい。 少し、マンネリ化の傾向があるが継続して行くことが大事	○
子ども育成課	児童センター管理運営事業	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにする。	・各種教室、講座等の事業の開催 定例事業(延269回)、単発事業(延26回)、夏事業(延21回)	事業実施に伴うボランティアの確保	◎
	子どもと親の家庭教育事業	育児やしつけ方法をはじめ、対象者が欲する情報の提供や学習の機会を提供し、自信をもって子育てができるようにする。	・年間に8回程度開催する ・形態は講演会方式を中心とする ・1回の時間は2時間以内とする ・具体的なテーマ(例)は以下のとおり ・食育に関すること ・読書の効用に関すること ・自己(保護者)研鑽に関すること ・発達障害に関すること ・子どもとのコミュニケーションに関すること ・携帯電話やインターネットに関すること	講座開催の応募はあるが講師や学校等のスケジュールが合わず実施できない講座もあるため、今後は講座募集の周知方法を考える必要がある。	△
ごみ対策課	マンスリーフリーマーケット及びリサイクル品の無料提供	ごみ減量啓発として、家庭で眠っている日用品等のリサイクル及びごみとして出された家具等の無料提供によるリサイクルを目的としている。	毎月第一日曜日に出店者を募集してフリーマーケット開催及びごみとして出された家具等を修理・清掃して市民へ無料で提供。	フリーマーケットについては、屋外で開催しているため、雨天時は中止となっている。今後は、雨天中止後の対応を検討する必要がある。	○

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
介護福祉課	高齢者イキイキニコニコ介護予防教室	介護予防や健康増進を図るための各種教室の実施により、介護予防に寄与し、仲間づくりや高齢者の活動の場を提供することで、活力ある地域社会づくりの構築に努める。	軽体操、ウォーキング、太極拳、健康気功、実用書道、絵画、インターネット、着付け、陶芸、スポーツ吹き矢、脳のトレーニング、カラオケ、英語、絵手紙、栄養(料理)、歴史散歩、手芸、消しゴムはんこの各講座を12回(3ヶ月)を1クールとして、3クール開催 平成26年度参加者数 1,292人	男性参加者が少ないため、男性参加者が増えるような講座内容の工夫	◎
	元気歯つらつ健口講座	高齢者の介護予防及び健康の増進を図るため、口腔(くう)機能の向上の教育、口腔清掃の指導、摂食嚥(えん)下機能の訓練等の指導をすることにより、高齢者の誤嚥性肺炎を予防すること、老化や障害による口腔機能の低下を予防又は改善することを目的とする。	元気歯つらつ健口講座として、口腔ケアの重要性を学ぶ講座を6回(月2回を目安に約3ヶ月)を1クールとして、3クール開催 平成26年度参加者数 70人	継続して開催していく。	◎
	認知症サポーター養成講座	日常生活の中で認知症の人と出会った時に、その人の尊厳を損なうことなく、適切な対応をすることで、認知症の人と認知症の人を介護する家族を見守り、応援者となることを目的とする。	認知症サポーター養成講座の講師となるため講習を受けたキャラバンメイトにより、認知症の症状や認知症の方と接する時の心がまえを学ぶ。 平成26年度参加者数 798人	子どもの頃から認知症の理解を深めるため、小・中学生を対象として講座を開催しているが、今後も講座の実施校を増やすため、学校の協力を引き続き求めていく。	◎

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
介護福祉課	傾聴ボランティア講座	元気な高齢者が身(心)体的弱者の高齢者の話を聴き、お互いに支えあう関係を築くことで孤独感の解消や心の健康維持となり、介護予防にもつながることから傾聴ボランティア講座を実施する。また、この講座を受講した者に傾聴ボランティアサークルの紹介を行い、傾聴ボランティア活動につなげる。	傾聴理論の講義と実習を週1回全5回の講義を行う。 平成26年度参加者数 20人	この講座受講後、傾聴ボランティアサークルに参加して活動している方がいるので、今後も継続して開催していきたい、ボランティア活動の支援を行う。	◎
障害福祉課	手話通訳者の派遣	聴覚、言語機能などの障害のある人を対象に、日常生活又は社会生活において健聴者との円滑な意思疎通を必要とする場合に、手話通訳者等の派遣を行い、福祉の増進を図る。	聴覚、言語機能などの障害のため、意思疎通を図ることに支障がある障害のある人を対象に、コミュニケーションの支援を図る手話通訳者等の派遣を行う。 26年度派遣回数：192回	平成26年度末において、昭島市に登録してる手話通訳者数は10人となっており、手話通訳者の養成が課題となっている。昭島市社会福祉協議会と連携を図るなかで、平成25年度より、手話通訳者養成講座を実施している。	○
学校給食課	Let's食育クッキング教室	食育の推進	【平成26年度実績】 第1回 7月30日(水) 15組31名 参加 第2回 7月31日(木) 23名 参加 第1回は、小学生(低学年)及び保護者、第2回は、小学生(高学年)を対象に、あいぽっくで実施。 メニュー ご飯・卵焼き、タンドリーチキン・なすといんげんのオイスター炒めなど	今後も、前年度の内容を踏まえ、「食」に興味を持つためのいきっかけとなるよう、引き続き実施していきたい。	◎

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
学校給食課	お弁当の日	食育の推進	【平成26年度実績】 小・中学校において、年3回の「お弁当の日」を実施した。 また、1回は統一実施日(5月19日)を設け、実施した。 なお、統一実施日に実施できない場合には、違う日を設定して実施した。	家庭内での役割や食事の大切さについて考える機会となるよう、引き続き実施していきたい。	◎
	「食育」シンポジウム	食育の推進	【平成26年度実績】 実施日時 平成27年1月29日(木) 午後3時～5時 場 所 市民ホール 参加者 107名 テーマ「和食について」～しょうゆの味力～ 実践報告及び講演会などを行った。	今後も、テーマに沿った「食」に関する指導を行い、心身の健康や食事の重要性などの理解を深めていきたい。	◎
環境課	あきしま水辺の楽校	あきしま水辺の楽校は、市は水辺の楽校協議会の事務局の立場として、水辺の楽校にて多摩川の自然に触れ、自然環境と人間との共生を考えてもらうことを目指す。	多摩川の自然に親しめるよう、ワンド(入江)や湿地帯で、運営協議会による魚とり大会、魚釣り及びカヌー教室並びに自然観察などのイベントを行う。	次世代を担う子どもたちに自然とふれあう機会を多く提供できるようにする必要がある。	○
	森林教室	奥多摩・昭島市民の森事業では、貴重な水源林を保全することや、自然体験型の教室を開催し、次世代の自然への関心を高めることを目指す。	森林での草刈りやせん定等の体験を通じ、緑を守るのに必要な知識や技術などを学びます。	次世代を担う子どもたちに自然とふれあう機会を多く提供できるようにする必要がある。	○

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
環境課	環境学習講座	環境の事を多くの市民に関心を持ってもらうことを目指す	地球規模の環境問題から身の回りの環境までいろいろなテーマを学習する。	一人でも多くの市民に参加してもらうために、楽しく学べる講座を開催したい。	○
	環境学習講座 (環境活動リーダー養成講座)	市と市民との共同作業で、市内の管理緑地を維持・管理を行うための環境学習リーダーの育成を目指す	座学、フィールドワーク、実技指導を行い環境活動リーダーを養成する。	新規の参加者を集められるように募集方法を検討する。	○
	犬のしつけ教室	犬の適正な飼養及び飼い主のマナーの向上を図り、併せて犬に関する事故や苦情を防止する。	東京都動物愛護相談センターの職員を講師に迎え、犬の適正飼養に関する講習・実技指導を行う。	一人でも多くの市民に参加してもらえよう周知方法について検討する	○
	あきしま環境緑花フェスティバル	市域の人たちにフェスティバルを通じて環境に関心を持ってもらう。また、市の環境の取組を紹介する。	環境講演会、グリーンカーテン講習会、苗木・花鉢の販売 ほか	大人から子どもまで楽しく参加できるフェスティバルを開催したい。	○
健康課	各種講座・教室の開催	ライフステージにおける健康課題に応じた健康に関する講座や健康教室を通し、自らが進んで健康づくりを実践できることを目的とする。	生活習慣病予防対策として、いきいき元気教室、ヘルスアップ運動教室、糖尿病教室等 母子保健健康教室として、マタニティークラス・フレッシュパパママ学級、初めての歯磨き教室離乳食講座や2歳児すこやか教室、等	特定健康診査などの受診結果に基づき、市の疾病構造などの健康課題に応じた講座や健康教室の実施を今後も継続して行う。未就学児の保育付きの教室を充実させ、参加しやすい講座・教室づくりを継続する。	○
交通対策課	交通安全市民のつどい	市民を対象とした交通安全啓発。	交通安全講話、アトラクションや交通安全グッズの配布などを行い、市民に交通安全意識の普及・浸透を図る。 (平成26年度の参加者は一般市民約500名)	平成27年6月1日の改正道路交通法施行による自転車運転者の違反に対する罰則強化があったため、講話等で自転車マナーの啓発を重点的に行う。	◎

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
産業活性課	農ウオーク 親子米づくり教室 産業まつり たま工業交流展	<p>【農ウオーク】 市民や来訪者が農産物の生産現場を見学する事で都市農業への理解を図る。</p> <p>【親子米づくり教室】 苗作りから稲刈りまで、一連の農作業を親子で行う事により、都市農業への理解を図る。</p> <p>【産業まつり】 市内事業所の生産品及び商品の展示・販売等を実施し、商工業や観光業、農業の振興を図る。</p> <p>【たま工業交流展】 多摩地域の中小企業のもつ優れた技術や製品を一堂に会し、先端技術の展示や企業交流によりビジネスチャンスの創出拡大を図る。</p>	<p>【農ウオーク】 平成26年10月29日(水)25人 ※主催・昭島観光まちづくり協会</p> <p>【親子米づくり教室】 平成26年4月・6月・7月・10月の各月1回開催 20人</p> <p>【産業まつり】 平成26年11月8日(土)48,000人、9日(日)27,000人</p> <p>【たま工業交流展】 平成27年2月26日(木)・27日(金)6,000人、出展数148社</p>	参加された市民が満足するような事業の内容について検討する。また、多くの方が事業に参加できるよう、周知活動について工夫をする。	○
企画政策課	(1)男女共同参画講演会 (2)男女共同参画セミナー (3)核と平和を考える市民のつどい	<p>(1)、(2)男女共同参画社会の実現に向け、講演会、セミナーの実施により、男女平等・男女共同参画に関する意識の普及及び啓発を図る。</p> <p>(3)「非核平和都市宣言」を行った自治体として、核の廃絶と世界の恒久平和を目指して、市民に平和の尊さを周知し、平和に対する意識の高揚を図る。</p>	<p>(1)講演会(年1回)開催 男女共同参画に関するものを実施</p> <p>(2)セミナー(年2回)開催 セミナーは、直接女性の人権に関するものと、生活支援に関するものを実施</p> <p>(3)「核と平和を考える市民のつどい」開催 平和映画会、平和施設見学会、平和パネル展、8/6、8/9、8/15の黙とう、市役所正面玄関脇懸垂幕及び市内4箇所横断幕の掲示(啓発用)</p>	<p>(1)、(2)講演会、セミナーともに内容は充実しているが、参加者が少ない。参加者を増やす工夫が課題であり、引き続き検討したい。</p> <p>(3)引き続き、平和事業を継続し、平和の尊さを周知していきたい。</p>	◎

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
防災課	昭島市総合防災訓練	防災意識の啓発	①震災発生直後における自助、共助体制確立の促進 ②行政及び各防災機関の実践的な訓練の実施による災害対策能力の向上	自助・共助・公助が有機的に連携するためには、訓練参加者の主体的な行動が必要であり、そのための働きかけ	○
	防災研修会	防災意識の啓発	震災時に必要な地域リーダーの育成	毎年同じ方の参加が目立つため、多くの方に参加していただく工夫	○
	親子防災研修	防災意識の啓発	災害時における日頃の備えがいかに大切かを親子で学ぶ	近年は参加者上限を下回ることが多く、広く周知していくことが必要	○
	救急救命講習	防災意識の啓発	人命救助に関する基礎知識を学ぶとともに、その必要な技術を身につける	近年は参加者上限を下回ることが多く、広く周知していくことが必要	○
水道部	昭島の水道	深層地下水100%の安全安心な水道水を周知するため	地下水100%の水道水を学びます。	特になし	◎
生活コミュニティ課	消費生活講座	近年、振り込め詐欺や架空請求等の消費者被害が増加しているため消費者被害を未然に防ぐ事を目的に、正しい消費者知識の普及等を目的とする。	初心者向けパソコン講座や夏休み親子講座を始めとし、高齢者被害防止等を目的とした講座を実施。	市役所等で開催するだけでなく、地域の集まりでの消費者講座の実施を検討する。	◎
	消費生活展	健康で安全な生活を営むために市民の消費生活に対する意識の啓発や消費生活の安全の向上を図ることを目的とする。	消費生活者連絡会を中心に実行委員会組織で、消費生活に関わる内容のパネル展や講座を開催する。	実行委員会の新規加入者の確保	◎

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
スポーツ振興課	健康さわやか教室	多くの人と交流しながら軽体操で体を動かし、心身のリフレッシュを図る	26年度延べ参加人数6,863人 25年度延べ参加人数6,417人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	◎
	水中ウォーキングワンポイントアドバイス	水中での効果的なウォーキング方法を身につける	26年度延べ参加人数99人 25年度延べ参加人数110人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	○
	初心者水泳ワンポイントアドバイス	四泳法の基礎を学ぶ	26年度延べ参加人数837人 25年度延べ参加人数875人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	○
	親子ふれあいスポーツデー	新体カテスト、ストラックアウト、輪投げ等を楽しみながら、親子のふれあいを深める	26年度延べ参加人数266人 25年度延べ参加人数213人	参加者増を図る	○
	ニューススポーツ教室(インドアペタンク)	小学生から高齢者まで年齢の壁を越えて楽しむことができるニューススポーツを体験する	26年度(開催日数2日)延べ参加人数51人 25年度(開催日数22日)延べ参加人数287人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	○
	少年少女サッカー教室(低学年)	プロの指導により、サッカーの基本、楽しさを学ぶ	26年度延べ参加人数50人 25年度延べ参加人数44人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	○
	少年少女サッカー教室(高学年)	プロの指導により、サッカーの基本、楽しさを学ぶ	26年度延べ参加人数14人 25年度延べ参加人数24人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	△
<p>【スポーツ振興課より】 今後の課題を「変化する市民ニーズに対応した教室の開催」としていることについて 教室の開催は市民から「こういった教室はないか」という声を聞きながら、次年度の教室内容を決定しているため、年度によって開催する教室の内容に変化が出てくる。実際に「女性のためのエアロビクス教室」は参加者が3分の1に減ったこともあり、27年度は、「脂肪燃焼エクササイズ」という教室に変わった。</p>					

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
スポーツ振興課	子どもヒップホップダンス教室	ヒップホップダンスの基礎を身につける	26年度延べ参加人数79人 25年度延べ参加人数84人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	○
	少年少女卓球教室	楽しみながら卓球の基本技術を学ぶ	26年度延べ参加人数136人 25年度延べ参加人数141人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	○
	ナイターテニス初心者教室	基本技術を中心に講習を行い、テニスの楽しさを学ぶ	26年度延べ参加人数125人 25年度延べ参加人数162人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	○
	テニス初心者教室(昼間)	テニスの技術や楽しさを学ぶ	未開催 ※未開催のため、評価せず	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	
	中高年のためのアクアエクササイズ	水の特性を活かし、体に負担を掛けずに有酸素運動を行う	26年度延べ参加人数648人 25年度延べ参加人数671人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	○
	バドミントン初心者教室	楽しくゲームを行う	26年度延べ参加人数234人 25年度延べ参加人数131人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	◎
	クライミング施設利用認定試験	クライミング施設の利用を認めるための試験	26年度受験者数3人 25年度受験者数4人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	△
	はじめてのクライミング教室	初歩的な技術の習得とクライミングの楽しさを学ぶ	26年度延べ参加人数206人 25年度延べ参加人数192人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	○
	子どもクライミング教室	初歩的な技術の習得とクライミングの楽しさを学ぶ	26年度延べ参加人数229人 25年度延べ参加人数185人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	◎
子ども水泳教室	初心者を対象に、泳ぐ楽しさを覚える	26年度延べ参加人数103人 25年度延べ参加人数121人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	○	

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
スポーツ振興課	弓道教室	弓道の楽しさを体験する	26年度延べ参加人数133人 25年度延べ参加人数111人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	◎
	空手道教室	楽しみながら空手の基本の型を学ぶ	26年度延べ参加人数53人 25年度延べ参加人数65人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	△
	上級救命講習	普通救命講習の内容に加え、傷病者管理、外傷の手当要領、搬送法を学ぶ	26年度延べ参加人数16人 25年度延べ参加人数18人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	○
	初めてのフラダンス教室(保育付)	初歩的な技術の習得とフラダンスの楽しさを学ぶ	26年度延べ参加人数204人 25年度延べ参加人数235人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	○
	やさしいピラティス教室	体に余計な負担をかけずに体の奥の筋肉を鍛える	26年度延べ参加人数112人 25年度延べ参加人数107人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	◎
	女性のためのエアロビクス教室	軽運動で、心と体のリフレッシュやシェイプアップを図る	26年度延べ参加人数73人 25年度延べ参加人数244人	変化する市民ニーズに対応した教室の開催	△
	個人開放デー(球技)	卓球・バスケットボール・バドミントン・ミニテニスを気軽に楽しめる場の提供	26年度延べ参加人数1,747人 25年度延べ参加人数1,540人	継続	◎
	個人開放デー(クライミング)	気軽にクライミングの楽しさを体験する機会を提供	26年度延べ参加人数434人 25年度延べ参加人数425人	継続	◎

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
庶務課(教育委員会)	小学生英語チャレンジ体験事業	小学生が外国人とコミュニケーションを図る楽しさや、本場の英語にふれる機会を作り、小学生の英語学習への意欲や多様な文化への理解を深め、将来未知の分野にチャレンジできる子どもの育成を図る。	トレーニングを受けたアメリカ人学生20人程度をリーダーとして行われる宿泊体験事業に参加。英語を用いた遊び、ゲーム、スポーツ、簡単な英会話研修、キャンプファイアーなどに参加する。国分寺市の小学校6年生と合同の6人程度のグループ活動が中心。		◎
	中学生英語キャンプ事業	中学生が広い視野を持ち、異文化を理解し、世界の人々と協調して生きていく態度を身につけることを目指す国際理解教育を推進するため、アメリカ人学生との2泊3日の宿泊体験を実施する。	トレーニングを受けたアメリカ人学生20人程度をリーダーとして行われるサマーキャンプに参加。キャンプでは、6人程度のグループで、日常会話に役立つフレーズを学んだり、グループディスカッションなどを通して語学力・リスニング力を高めるほか、キャンプファイアーやダンスパーティーなどを行う。国分寺市・東大和市の中学2・3年生と合同の6人程度のグループ活動が中心。	平成27年度は募集人数が30人に対し、14人の応募しかなかった。ホームページ、広報のほかに学活等の時間にクラス担任の先生より事業の簡単な説明を行い、募集要領を中学校2・3年生の教室に掲示し周知しているが、周知方法の見直しが必要である。	◎
	中学生海外交流事業	中学生を海外に派遣することにより、その国の文化や歴史を学び、伝統などを体験し、将来国際的視野に立って活躍する人材の育成を図る。また、海外から留学生を受け入れることにより、留学生が日本や昭島市のことを学ぶほか、市内の中学生が留学生との触れ合いを通して外国語や国際的視野を学び、世界に目を向ける足がかりをつけることを目的とする。	中学生がオーストラリアでホームステイをして、現地学校に通う。また、オーストラリアの相手校の生徒が、市内中学生宅にホームステイをして中学校に通う。		◎

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
指導課	きこえとことばの教室	聞き取りや話すことが苦手な小学生に対しての適切な支援を実施する。	週1～2回の決められた時間に通級して、言語やコミュニケーション能力を高める。	増加している特別な支援を要する児童に対するニーズへの対応	○
	大空学級 そよかぜ学級 たんぼぼ学級	集団生活を送ることに苦手な小学生に対しての適切な支援を実施する。	週に1～2回の決められた曜日・時間に通級して、社会性を高め、自信をもって学校生活を過ごすことができるよう支援する。	増加している特別な支援を要する児童に対するニーズへの対応	○
	ずいうん学級	集団生活を送ることに苦手な小学生に対しての適切な支援を実施する。	個別指導と小集団指導により在籍学級への適応につないでいく指導を行う。また、個別の指導計画を作成し、生徒一人一人に対しての理解を深め、個性や能力の伸長を図ります。	増加している特別な支援を要する生徒に対するニーズへの対応	○
	子どもの主張意見文コンクール	小学生・中学生の言語能力の伸長を図る。	自分の考えを文章にまとめて発表し、伝えることの大切さを学ぶ。	全校からの入選が出ないこと	◎
	中学生英語スピーチコンテスト	中学生の英語能力とコミュニケーション能力の伸長を図る。	英語を話すこと、聞くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養った成果を発表する。	ALTと中学校英語教員との連携の確保や当日の審査員の確保	◎
	特別支援学級合同学習発表会	特別支援学級の児童・生徒に発表の場を設定し、互いの学校の活動の様子を知るとともに一人一人の自己肯定感の向上を図る。	特別支援学級に在籍する児童・生徒の活動の様子を紹介するとともに、学習の成果を発表する。	特別支援教育に対する理解と啓発を図ること	○
	小学校音楽会	児童の表現を互いに鑑賞し、音楽を愛好する心情と感性を育て、豊かな情操を養う。	児童による音楽会を年1回開催して、学習の成果を発表する。	準備等を含めた会場の確保	○

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
指導課	小学校展覧会	児童の豊かな心情を育てるとともに、表現力等の向上及び小学校における図画工作教育の充実を図る。	児童による展覧会を年1回開催して、学習の成果を発表する。	各小学校からの作品の運搬が煩雑になること	○
	学校保健会講演会	学校教育にかかわる学校医・学校歯科医・学校薬剤師・教職員・保護者などを対象に、児童・生徒の健康問題に関する啓発を図る。	児童・生徒の健康問題や子育てに関する講演を年に1回実施する。	参加者の増加を図ること	△
	歯の保健衛生講演会	学校教育にかかわる学校歯科医・教職員・保護者などを対象に歯の健康に関する啓発を図る。	歯や口腔ケアなど歯科健康教育に関する講演を年に1回実施する。	参加者の増加を図ること	△
市民図書館	幼児向けおはなし会	乳幼児と保護者に絵本や手遊びを通して言葉の楽しさを体験してもらい、あわせて図書館の利用拡大を図る。	乳幼児向けに絵本の読み聞かせやてあそびを行う。	状況によっては手狭なこともあるので場所の確保も検討する必要がある。	○
	おはなし会	子どもから大人までを対象として本と親しみ、本を楽しむ環境づくりの一環として行う。	(絵)本の読み聞かせや紙芝居等を行う。	本年度は昨年度より参加者が多かったがまだ参加者が少ない。	○

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
市民図書館	夏休み楽しい科学あそび	子どもたちが夏休み期間に科学の本のおもしろさを理解しながら豊かな読書生活を送る機会とする。	科学の実験や科学あそび等の体験を通して科学の本の楽しさを知ってもらう。	毎年好評で申し込みを断るケースもあり、実施場所を検討する必要がある。	◎
	中学高校生の読書フォーラム	中学・高校生に読書の大切さや楽しさを考えてもらおうと同時に、学校と図書館が連携しより多くの世代に読書欲を引き出せる機会とする。	中学・高校生が主体となり読書について実行委員会を立ち上げ、図書に関するPOP絵等の作成や読書について考えるフォーラムを実施する。	本年はこのフォーラムでビブリオバトルを行い、一定の評価を得たが、まだまだ中学高校生の読書に関する関心が薄い。	◎
	本のリサイクル展	図書館で永年利用された資料、汚損等で不要となった資料や利用者から寄贈を受けたが所蔵できなかった資料を市民へリサイクルすることにより、資源の有効活用を図る。	除籍図書や雑誌を市民に無料で配布する。	毎回、開始時に大勢の来場者があるが、会場のスペースが限られているため、転倒等事故のないよう会場の安全確保を図っていきたい。	○
社会福祉協議会	こどもまつり	子供も大人も楽しめるお祭りを開催、交流の場を提供	ボランティアを中心とした参加型のお祭りを開催、子供だけでなく家族も一緒に楽しんでもらうための祭り(5月開催:参加者約2,000人)		◎
	ファミリー・サポート・センター協力会員養成講座	地域で行う子育て支援の、協力員養成	ファミリー・サポート・センター協力会員の養成講習を年2回開催(参加者46名平成26年度末 協力会員総数245名)		○

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
社会福祉協議会	認知症介護者交流会・学習会	お互いの介護体験談を聞き合い、介護方法・工夫を学び、相互の交流を図る	認知症介護者のための交流会を年4回、学習会を年2回開催		○
	権利擁護講座	高齢者・障害者の生活や権利を守る知識を学ぶ	高齢者・障害者の生活や権利を守る内容の講座を年2回開催		○
	夏休み体験ボランティア	体験ボランティアを通して、よりよいまちづくりのため主体的に参加する意義を学ぶ	夏休み期間を利用して、市内の施設でボランティア活動を体験(平成26年度75名参加)		○
	手話講習会	手話初級者及び初級を終了した中級者を対象とした講習	初級・中級それぞれ延べ30回の講習を開催(平成26年度 初級19名 中級17名参加)		○
	初級音訳ボラ養成講座	視覚障害者の支援として、読み聞かせや声の録音などをするボランティア育成	音訳ボラ養成講座を開催(平成26年度全12回 10名参加)		○
	福祉のいろは講座	障害者への理解を深めボランティア活動に繋げるため	福祉のいろは講座を開催(平成26年度全4回 15名参加)		○
	災害ボランティアセンター立ち上げ訓練	災害ボランティアの育成	昭島市総合防災訓練会場で高校・中学校の学生ボランティアを中心に立ち上げ訓練を実施		◎

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
社会福祉協議会	減災セミナー	被害を最小限に抑える知識の習得	日本赤十字奉仕団東京支部の赤十字減災セミナーを開催		○
	サロン講座・団体研修	サロンの普及立ち上げを推進	サロン講座・研修を開催(平成26年度講座 全2回 169名参加、団体研修全1回 9団体 30名参加)		◎
	学校教育支援プログラム	学校への福祉教育支援	手話体験・点字体験・聴覚障害者の講演・車いす体験などをボランティアや関係団体と協力してプログラムを作成し、学校へ配布(平成26年度 市内高校 1校・中学校 3校・小学校 9校で開催)		◎

(3)「学び」の機会を提供する(あきしま学びぷらん(第2次昭島市生涯学習推進計画)P.68)

(3)-③

■情報の提供

具体的な取組み:市の施設での情報提供、生涯学習情報誌の発行、「広報あきしま」での情報提供、公式ホームページでの情報提供

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
社会教育課	あきしま学びガイド/登録団体ガイドブックの発行 ホームページやツイッターの活用	生涯学習情報、団体登録情報を市民に提供する	<ul style="list-style-type: none"> ・「あきしま学びガイド」(生涯学習情報誌)毎年4月に発行する。 ・「社会教育関係団体登録団体ガイドブック」毎年6月発行。市立会館に閲覧用を配付する。27年度は、各団体の紹介カードに団体ホームページの記載があれば、ホームページ上でリンクを貼った(8団体) ・ホームページやツイッターの活用 ・広報内「市民の広場」のリスト化(非公開。紹介の際活用) ・「国や都、大学等の講座・事業・助成金情報」をホームページに掲載 	「あきしま学びガイド」の内容の充実と、情報提供の方法(配布場所の見直しや、周知の方法)	○
秘書広報課	「広報あきしま」の発行	市民と行政が情報を共有し、理解しあい、協働してまちづくりを進めるため、市の政策や事業について周知する	「広報あきしま」を発行する。また、視力の弱い方を対象に、広報紙を音訳した「声の広報」や、点字広報を発行する。	より見やすい紙面づくりの研究	◎
情報推進課	昭島市公式ホームページ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市の政策・施策の情報を提供する。 2. 昭島市での暮らしに役立つ情報を提供する。 3. 市役所の窓口としての機能を充実させ、住民サービスの向上を図る。 	市民へのタイムリーで有効な行政情報や緊急時の情報発信	ウェブアクセシビリティの継続的な確保・維持・向上	◎
子ども育成課	広報「あきしまの青少年」の情報提供	青少年の健全育成に関する啓発、情報提供。	5月・7月・10月・3月の年4回発行	健全育成活動への市民意識の啓発に繋がるための内容の充実を図る。	○

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
市民会館・公民館	公民館主催事業	市民の誰もがどこでも情報を入手できるように市広報やインターネットなど多様な形の情報発信を図る。	広報あきしま、公民館だより、ホームページ、チラシ・ポスター、ツイッター等	講座定員に達した場合やイベントが終了したときなど速やかにホームページに情報を発信したいが、本庁との出勤体制の関係で掲載まで時間を要することが課題。	◎
ごみ対策課	施設見学	「環境コミュニケーションセンター」の施設見学を通して、ごみの減量やリサイクルの必要性を学んでもらい、ごみの減量、資源化を押し進めていくことを目的としている。	環境コミュニケーションセンターの施設紹介、ごみ処理作業の見学やごみに関する質問などを行い、ごみについて学んでもらう。	引き続き多くの市民等に施設見学をしてもらえるように施設見学の内容の充実をはかっていくように工夫、検討が必要である。	◎
介護福祉課	高齢者福祉センターでの情報提供	高齢者福祉センターで介護福祉福祉課主催の講座や各部署からの各種講座のちらしの配布、ポスターの掲示による情報提供	高齢者福祉センターで介護福祉福祉課主催の講座や各部署からの各種講座のちらしの配布、ポスターの掲示	今後も各部署から依頼に応じた情報提供に努める。	○
健康課	全般	様々な手段を用い、ニーズに応じ、対応できるよう、わかりやすい情報提供を行います。	春・夏の健診特集号の全戸配布 広報あきしまや公式ホームページでの情報提供・子育てハンドブックへの情報提供など	今後も、市民にとってわかりやすい情報提供を心がけます。	○
産業活性課	勤労商工市民センター	施設に関連する情報を市民へ提供する。	施設内の掲示板等を活用し、施設に関する情報の提供をスムーズに実施する。	さまざまな団体が利用するなか、掲示するスペースが限られているため、掲示期間などのルール作りが必要となる。	○
企画政策課	男女共同参画情報誌「Hi,あきしま」の発行	男女共同参画に関する情報誌を市民公募の編集委員により発行し、市民への情報提供を図り、男女共同参画に関する意識の普及及び啓発を図る。	年2回(10月20日と3月20日)各7,000部発行 男女共同参画に関する情報や資料等を収集し、市民への提供に努める。 H24年度から男性編集委員が参画し、H27年度は女性4名、男性2名が編集にあたる。	引き続き、男女共同参画プランの施策の推進が図れるよう、公募の市民委員とともに市民に情報提供を行っていききたい。また、手に取ってもらえるような情報誌として、内容の充実を図っていききたい。	◎

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
生活コミュニティ課	市役所内掲示板・パンフレットラック	市民団体活動やボランティア活動などのネットワークを広げるため、活動を周知するため。	市民団体活動やボランティア活動などを掲示する掲示板及びパンフレットラックを市役所に設置。(掲示板＝2階行政資料コーナー横、パンフレットラック＝1階階段横)	2階にある掲示板を1階に動かしたい。	○
	市民団体とかかわりの深い3課とボランティアセンターとの情報交換会	効果的な市民団体支援をする。	市民団体とかかわりの深い3課(公民館、社会教育課、生活コミュニティ課)とボランティアセンターとの情報交換会を開催し、情報共有することで、効果的な市民団体支援について探る。	まずは行政内部で情報共有を行い、その後、市ホームページなどを使い、市民への情報提供も検討。	◎
市民図書館	各種媒体を利用した情報提供	各種媒体を利用し、広く図書館の利用を促すことを目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「広報あきしま」で新刊図書の案内等を行う。 ・図書館ホームページにおはなし会等のイベント情報を掲載する。 ・小学生向けに本を紹介したパンフレットを配布する。 	ホームページを利用した情報提供の充実を図っていききたい。	○
	インターネットコーナーの設置	図書館所蔵の資料では提供することができない情報について、インターネットを活用することにより、必要な情報を提供する。	市民図書館に5台のインターネット閲覧専用の端末及びプリンターを設置し、登録者の利用に供している。	今後、各種オンラインデータベースを導入する等、提供することのできる情報の拡大を図っていききたい。	○

(3)「学び」の機会を提供する(あきしま学びぷらん(第2次昭島市生涯学習推進計画)P.69)

(3)-④

■相談機能の充実 具体的な取組み:相談窓口の充実、相談情報の提供

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
社会教育課	全般	<ul style="list-style-type: none"> ・市の生涯学習推進に向け、情報の提供、公開とともに、相談機能の充実を図る。 ・文化財関係に関するあらゆる相談。 	市民のあらゆる相談等に対応する。	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな団体活動のリスト化と各課での情報交換・共有(生活コミュニティ課主催で現在進行中) ・専門の知識を持つ職員の養成 	○

(4)「学び」を支援する(あきしま学びぷらん(第2次昭島市生涯学習推進計画)P.71)

(4)-①

■生涯学習相談のシステム作り 具体的な取組み:生涯学習情報センターとしての機能、ネットワークの構築

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
社会教育課	全般	学習相談の機能がスムーズに働くシステムをつくり、「学び」を支援する。	登録団体ガイドブック等に相談窓口が社会教育課であることを明記。ホームページに「国や都、大学等の講座・助成金情報」を掲載し、情報を発信するなどしている。 生活コミュニティ課を中心として、市民会館公民館、社会教育課とボランティアセンターで情報交換を行い、ネットワークを作っている。	情報交換のネットワークの継続と拡大、市民団体、企業、NPOとの連携	○

(4)「学び」を支援する(あきしま学びぷらん(第2次昭島市生涯学習推進計画)P.72)

(4)-②

■人材育成の活用とボランティアの活用

具体的な取組み: 地域の実情を把握する、地域の人材を育成する、ボランティア活動の推進を図る、生涯学習援助協力者のシステムを構築する

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
社会教育課	生涯学習援助協力者登録・活用	市民の生涯学習の推進を図る	生涯学習援助協力者として登録された市民を、市の事業や市民活動で協力してもらう。 活用事例: 土曜ふれあい事業(囲碁・陶芸)、様々な市民グループへの紹介(平成26年度から現在 6件紹介)	生涯学習援助協力者の確保と、活用の場を増やすこと。制度に関する情報提供	○
	生涯学習サポーター養成講座	生涯学習推進を図る市民を養成する。	平成27年1月から6月に、東京学芸大学倉持伸江先生を招き、養成講座を実施。受講者9名。9月から自主活動をスタートする。	養成講座の継続実施と、受講者の活動の支援	◎
	昭島市郷土資料室展示説明ボランティア養成講習	昭島市における文化財関係事業等を市民ボランティアの活動で文化財の啓発活動を行っている。	市史跡「浄土古墳」のアダプト活動、文化財めぐり等の説明、郷土資料室の団体見学等の説明等。	今後も引き続きボランティアを養成して行きたい。	◎
	昭島市文化財ボランティアガイド	昭島市郷土資料室は現在「水・土・日」の3日間シルバー人材センタに委託し開室しているが、そのうちの平日(水)等の運営をボランティアを養成し、対応するための講習会。	昭島市域の「原始・古代」「中世・近世」「幕末～近代」「民具」の4つの講習と近隣市4郷土資料施設の視察研修。	今後も引き続きボランティアを養成して行きたい。	○

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
介護福祉課	傾聴ボランティア講座	元気な高齢者が身(心)体的弱者の高齢者の話を聴き、お互いに支えあう関係を築くことで孤独感の解消や心の健康維持となり、介護予防にもつながることから傾聴ボランティア講座を実施する。また、この講座を受講した者に傾聴ボランティアサークルの紹介を行い、傾聴ボランティア活動につなげる。	傾聴理論の講義と実習を週1回全5回の講義を行う。 平成26年度参加者数 20人	この講座受講後、傾聴ボランティアサークルに参加して活動している方がいるので、今後も継続して開催していきたい、ボランティア活動の支援を行う。	◎
生活コミュニティ課	公共施設地域管理補助金	市立会館などの1室をコミュニティ・ルームとして協議会の活動で利用できるようにし、そのコミュニティ・ルームを設けた市立会館などを、地域の会館として協議会が運営管理する。	コミュニティ協議会が市立会館その他の市の公共施設を管理する場合において、その管理に要する経費に対し補助金を交付する。 現在は、市立武蔵野会館運営協議会が、武蔵野会館を地域で管理することについて、補助金を交付している。	市内で唯一協議会が運営管理に携わっている武蔵野会館だが、市立会館の一つであるため、協議会が運営管理をしても、自由度が少ない。 また、協議会による会館管理が、他の施設に広がっていかない。	○
	公共施設アダプト事業	ボランティア活動をはじめとする市民が主体的に行う地域貢献活動の健全な発展を促進し、もって協働型社会の形成を図り公益の増進に寄与することを目的とする。	市が管理する道路、公園、緑地等の公共施設の美化清掃活動を自主的に行う団体に対し、清掃用具の提供やボランティア保険の加入など必要な支援を行う。	既存団体のメンバーの高齢化による、活動解除。 新規団体登録の声掛け。	◎

子ども育成課:該当なし

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
社会福祉協議会	ボランティア登録	ボランティア団体の育成	ボランティアセンターで、ボランティア事業登録団体の受付を実施、センター活動室や設備の利用等の支援を実施(87団体:平成26年度末現在)		◎
	ボランティア助成金	ボランティア団体の育成	ボランティアグループに助成金を交付し、活動を支援		○
	サロン活動助成金	サロン活動団体の育成	地域のつながりが生まれる場としサロンの立ち上げを推進し、サロン団体に、助成金を交付し活動を支援(平成26年度 39団体 555,000円)		◎
	ファミリー・サポート・センター協力会員養成講座	地域で行う子育て支援の、協力員養成	ファミリー・サポート・センター協力会員の養成講習を年2回開催(参加者46名 平成26年度末 協力会員総数245名)		○
	認知症介護者交流会・学習会	お互いの介護体験談を聞き合い、介護方法・工夫を学び、相互の交流を図る	認知症介護者のための交流会を年4回、学習会を年2回開催		○
	権利擁護講座	高齢者・障害者の生活や権利を守る知識を学ぶ	高齢者・障害者の生活や権利を守る内容の講座を年2回開催		○
	夏休み体験ボランティア	体験ボランティアを通して、よりよいまちづくりのため主体的に参加する意義を学ぶ	夏休み期間を利用して、市内の施設でボランティア活動を体験(平成26年度 75名参加)		○
	手話講習会	手話初級者及び初級を終了した中級者を対象とした講習	初級・中級それぞれ延べ30回の講習を開催(平成26年度 初級19名 中級17名参加)		○

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
社会福祉協議会	初級音訳ボラ養成講座	視覚障害者の支援として、読み聞かせや声の録音などをするボランティア育成	音訳ボラ養成講座を開催(平成26年度全12回 10名参加)		○
	福祉のいろは講座	障害者への理解を深めボランティア活動に繋げるため	福祉のいろは講座を開催(平成26年度全4回 15名参加)		○
	災害ボランティアセンター立ち上げ訓練	災害ボランティアの育成	昭島市総合防災訓練会場で高校・中学校の学生ボランティアを中心に立ち上げ訓練を実施		◎
	減災セミナー	被害を最小限に抑える知識の習得	日本赤十字奉仕団東京支部の赤十字減災セミナーを開催		○
	サロン講座・団体研修	サロンの普及立ち上げを推進	サロン講座・研修を開催(平成26年度講座 全2回 169名参加、団体研修 全1回 9団体 30名参加)		◎
	学校教育支援プログラム	学校への福祉教育支援	手話体験・点字体験・聴覚障害者の講演・車いす体験などをボランティアや関係団体と協力してプログラムを作成し、学校へ配布(平成26年度 市内高校 1校・中学校 3校・小学校 9校で開催)		◎

(4)「学び」を支援する(あきしま学びぷらん(第2次昭島市生涯学習推進計画)P.73~74)

(4)-③

■学習成果の活用 具体的な取組み:学習成果活用を提供する、支援者集団を形成する

担当課	事業名	事業の目的	事業の内容	今後の課題	評価
社会教育課	生涯学習サポーター養成講座	生涯学習推進を図る市民を養成する。	平成27年1月から6月に、東京学芸大学倉持伸江先生を招き、養成講座を実施。受講者9名。9月から自主活動をスタートする。	養成講座を修了したサポーターのスキルアップも図る養成講座の継続実施と、活動の支援	◎
	拝島駅自由通路内展示ケースの貸出	市内で活動する団体の文化・芸術の発表の場を提供する。	利用したい月の半年前に申請を受け、貸出をする。毎月利用されている。(平成26年度は12団体)	現状維持	◎
	昭島市郷土資料室展示説明ボランティア養成講習	昭島市における文化財関係事業等を市民ボランティアの活動で文化財の啓発活動を行っていく。	市史跡「浄土古墳」のアダプト活動、文化財めぐり等の説明、郷土資料室の団体見学等の説明等。	今後も引き続きボランティアを養成して行きたい。	◎
市民会館・公民館	公民館主催事業	講座において交流の機会提供や終了後に集団形成を支援し、学習成果を地域で活用できるように図る。	昭島市民大学、各種課題講座、教育講座、自主企画事業、障害者学級等	職員の専門性やファシリテーション力が求められることがある。	○